
Create!Form RemoteObject

サーバ移行マニュアル (V11)

2016年12月
インフォテック株式会社

目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	移行先サーバの準備	2
第 3 章	移行元サーバでの操作	4
第 4 章	移行先サーバでの操作	6
第 5 章	その他	8
5.1	導入ディレクトリ	8
5.2	マネージャ画面	10
5.3	帳票資源ファイル	10
5.4	移行元サーバと移行先サーバで導入ディレクトリが異なる場合	10
第 6 章	おわりに	13

第 1 章

はじめに

Create!Form RemoteObject は、ネットワーク上にある Create!Form ランタイムを別のマシンから実行可能にする帳票サーバ分散環境を実現するためのソリューション製品です。

ここでは、導入済みの Create!Form RemoteObject を別のサーバへ移行するための手順について記載します。

第 2 章

移行先サーバの準備

以下の手順に従って移行先サーバの準備を行います。Windows 環境をご利用の方は **[Windows]**、Linux 環境をご利用の方は **[Linux]** の手順をご覧ください。

[Windows]

1. 移行先サーバへ Create!Form ランタイムと Create!Form RemoteObject をインストールし、ライセンスパスワードの設定を行います。(インストールの詳細手順については Create!Form Design に付属のインストールマニュアルをご覧ください)
2. インストールの完了後、サーバの再起動を行います。
3. Windows の [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を起動します。
4. 以下のサービスを停止します。
 - Create!Form Commons Container Service V11
 - Create!Form Storage Service V11
5. ユーザー設定ディレクトリ を以下のようにリネームします。

変更前	変更後
private	private_bak

6. ストレージパス を以下のようにリネームします。

変更前	変更後
storage	storage_bak

続いて [移行元サーバでの操作](#) を行います。

[Linux]

1. 移行先サーバへ Create!Form ランタイムと Create!Form RemoteObject をインストールし、ライセンスパスワードの設定を行います。(インストールの詳細手順については Create!Form Design に付属のイ

インストールマニュアルをご覧ください)

2. インストールの完了後、サーバの再起動を行います。
3. root ユーザでログインし、以下のコマンドを実行してサービスを停止します。

```
# service cfccd11 stop
# service cfmongod11 stop
```

4. ユーザー設定ディレクトリ を以下のようにリネームします。

変更前	変更後
conf	conf_bak

5. ストレージパス を以下のようにリネームします。

変更前	変更後
storage	storage_bak

6. プログラムディレクトリ 直下にあるログ設定ファイル「logsetup_u.properties」を以下のようにリネームします。

変更前	変更後
logsetup_u.properties	logsetup_u.properties_bak

7. プログラムディレクトリ 直下にある QDF ファイル「default.qdf」を以下のようにリネームします。
(Create!Form Print ランタイムをインストールしている場合のみ)

変更前	変更後
default.qdf	default.qdf_bak

続いて 移行元サーバでの操作 を行います。

第3章

移行元サーバでの操作

[Windows]

1. Create!Form RemoteObject のログイン画面へアクセスし、ログインを行います。
2. ホーム画面から [詳細設定]-[ストレージ設定] をクリックしてストレージ設定画面を表示します。
3. ストレージパスを確認します。(このストレージパスはあとで必要になるためメモしておきます)
4. Windows の [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を起動します。
5. 以下のサービスを停止します。
 - Create!Form Commons Container Service V11
 - Create!Form Storage Service V11
6. ユーザー設定ディレクトリ を移行先サーバの ユーザー設定ディレクトリ へコピーします。
7. 先ほどストレージ設定画面から確認した ストレージパス を移行先サーバの ストレージパス へコピーします。
8. 帳票資源ファイル を移行先のサーバへコピーします。

続いて 移行先サーバでの操作 を行います。

[Linux]

1. Create!Form RemoteObject のログイン画面へアクセスし、ログインを行います。
2. ホーム画面から [詳細設定]-[ストレージ設定] をクリックしてストレージ設定画面を表示します。
3. ストレージパスを確認します。(このストレージパスはあとで必要になるためメモしておきます)
4. root ユーザでログインし、以下のコマンドを実行してサービスを停止します。

```
# service cfccd11 stop
# service cfmongod11 stop
```

5. ユーザー設定ディレクトリ を移行先サーバの ユーザー設定ディレクトリ ヘコピーします。
6. 先ほどストレージ設定画面から確認した ストレージパス を移行先サーバの ストレージパス ヘコピーします。
7. 帳票資源ファイル を移行先のサーバヘコピーします。
8. プログラムディレクトリ 直下にあるログ設定ファイル「logsetup_u.properties」を移行先サーバの プログラムディレクトリ ヘコピーします。
9. プログラムディレクトリ 直下にある QDF ファイル「*.qdf」を移行先サーバの プログラムディレクトリ ヘコピーします。
10. プログラムディレクトリ にある以下のディレクトリを移行先のサーバの プログラムディレクトリ ヘコピーします。
 - dff
 - dict
 - font
 - pmode (Create!Form Print ランタイムを使用している場合のみ)
 - ppd (Create!Form Print ランタイムを使用している場合のみ)
 - sec (Create!Form Cast ランタイムを使用している場合のみ)
 - setup (Create!Form Print ランタイムを使用している場合のみ)
 - styjt (Create!Form Print ランタイムを使用している場合のみ)
 - styppd (Create!Form Print ランタイムを使用している場合のみ)

続いて 移行先サーバでの操作 を行います。

第 4 章

移行先サーバでの操作

移行元サーバと移行先サーバで導入ディレクトリが異なる場合、移行先サーバでの操作を行う前に [移行元サーバと移行先サーバで導入ディレクトリが異なる場合](#) の手順が必要です。移行元サーバと移行先サーバで導入ディレクトリが同一の場合はそのまま以下の手順を行ってください。

[Windows]

1. Create!Form の [マネージャ画面](#) からプリンタ設定を行っている場合、移行先サーバのプリンタ設定を移行元サーバと同じ設定にします。(マネージャ画面のプリンタ設定の詳細手順については [Create!Form Design](#) に付属のインストールマニュアルの「1-6-6 印刷環境の設定」をご覧ください)
2. 先ほどの [移行先サーバの準備](#) でリネームした「private_bak」に含まれる「LICENSE_RO」を [ユーザー設定ディレクトリ](#) に上書きコピーします。
3. Windows の [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を起動します。
4. 以下のサービスを開始します。

- Create!Form Commons Container Service V11

※「Create!Form Storage Service V11」は自動で開始するため開始する必要はありません。

以上で Windows 環境でのサーバの移行は完了です。

[Linux]

1. 先ほどの [移行先サーバの準備](#) でリネームした「conf_bak」に含まれる「LICENSE_RO」を [ユーザー設定ディレクトリ](#) に上書きコピーします。
2. root ユーザでログインし、以下のコマンドを実行してサービスを開始します。

```
# service cfccd11 start
```

※「cfmongod11」は自動で開始するため開始する必要はありません。

以上で Linux 環境でのサーバの移行は完了です。

第 5 章

その他

5.1 導入ディレクトリ

5.1.1 プログラムディレクトリ

製品実行時に必要なプログラムモジュールファイルが格納されるディレクトリです。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\Program Files (x86)\Infotec\CreateForm\11
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ
```

5.1.2 ユーザー設定ディレクトリ

製品実行時に必要な設定ファイル、製品実行時に変更されるファイルが格納されるディレクトリです。ini ファイル、ログ設定用ファイル、QDF ファイル、データ編集定義ファイル、フォント情報定義ファイル、カラーパレットファイル、印刷詳細設定ファイル、PDF セキュリティ設定ファイルなどが含まれます。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\private
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/conf
```

5.1.3 ユーザーデータディレクトリ

Create!Form により作成されるファイルが格納されるディレクトリです。実行ログ、ストレージなどのデータが含まれます。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/var
```

5.1.4 ストレージパス

内部のデータベース情報 (環境設定など) が格納されるディレクトリです。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var\storage
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/var/storage
```

5.2 マネージャ画面

マネージャ画面は、Windows の [スタート] メニューにある [すべてのアプリ]-[Create!Form V11]-[マネージャ] から起動する画面です。帳票資源ファイルの作成や Create!Form ランタイムの環境設定を行うことができます。

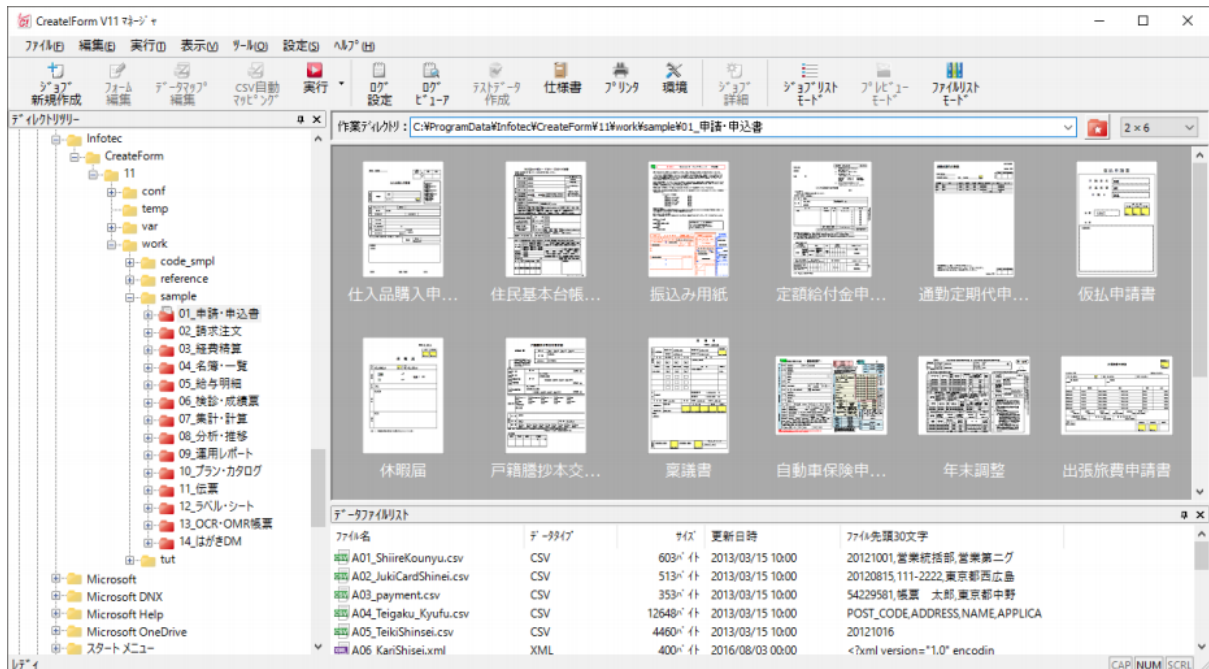


図 5.1 マネージャ画面

5.3 帳票資源ファイル

帳票資源ファイルは、Create!Form Design で作成した帳票のレイアウトデータ一式を表します。帳票資源ファイルは作業ディレクトリと呼ばれるディレクトリで管理され、作業ディレクトリには3つのサブディレクトリ「form」「datamap」「style」が含まれます。

```
+-- [作業ディレクトリ]
  +- [form]
  +- [datamap]
  +- [style]
```

5.4 移行元サーバと移行先サーバで導入ディレクトリが異なる場合

移行元サーバと移行先サーバで導入ディレクトリが異なる場合は以下の手順が必要です。

例えば、移行元サーバと移行先サーバで以下のように導入ディレクトリが異なる場合が該当します。

移行元サーバの導入ディレクトリ	移行先サーバの導入ディレクトリ
C:\Program Files (x86)\Infotec	D:\Apps\Infotec

[Windows]

1. 移行先サーバの **ユーザー設定ディレクトリ** に配置されている「logsetup_w.properties」をメモ帳などのテキストエディタで開きます。
2. 「runtime.output.dir」と「runtime.rotate.dir」に記載されているパスを移行先サーバの新しいログ出力先のパスに変更します。
3. 「logsetup_w.properties」を上書き保存します。
4. 移行先サーバの **ユーザー設定ディレクトリ** に配置されている「cfro-logsetup.properties」をメモ帳などのテキストエディタで開きます。
5. 「ro.output.dir」と「ro.rotate.dir」に記載されているパスを移行先サーバの新しいログ出力先のパスに変更します。
6. 「cfro-logsetup.properties」を上書き保存します。
7. 移行先サーバの **ユーザー設定ディレクトリ** に配置されている「mongodb.properties」をメモ帳などのテキストエディタで開きます。
8. 「storage:」の「dbPath:」に記載されているパスを移行先サーバの新しいストレージパスに変更します。(パスの区切り文字はスラッシュ「/」を使用してください。円記号「\」は使用できません)
9. 「systemLog:」の「path:」に記載されているパスを移行先サーバの新しいログファイルのパスに変更します。(パスの区切り文字はスラッシュ「/」を使用してください。円記号「\」は使用できません)
10. 「mongodb.properties」を上書き保存します。

引き続き **移行先サーバでの操作** を行います。

[Linux]

1. 移行先サーバの **プログラムディレクトリ** 直下に配置されているログ設定ファイル「logsetup_u.properties」を vi などのテキストエディタで開きます。
2. 「runtime.output.dir」と「runtime.rotate.dir」に記載されているパスを移行先サーバの新しいログ出力先のパスに変更します。
3. 「logsetup_u.properties」を上書き保存します。
4. 移行先サーバの **ユーザー設定ディレクトリ** に配置されているログ設定ファイル「cfro-logsetup.properties」を vi などのテキストエディタで開きます。

5. 「ro.output.dir」と「ro.rotate.dir」に記載されているパスを移行先サーバの新しいログ出力先のパスに変更します。
 6. 「cfro-logsetup.properties」を上書き保存します。
 7. 移行先サーバの **ユーザー設定ディレクトリ** に配置されている「mongodb.properties」を vi などのテキストエディタで開きます。
 8. 「storage:」の「dbPath:」に記載されているパスを移行先サーバの新しいストレージパスに変更します。
 9. 「systemLog:」の「path:」に記載されているパスを移行先サーバの新しいログファイルのパスに変更します。
 10. 「mongodb.properties」を上書き保存します。
- 引き続き **移行先サーバでの操作** を行います。

第 6 章

おわりに

本サーバ移行マニュアルに記載されている内容に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ Create!Form ユーザーサポートサイト

URL : <https://support.createform.jp>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form RemoteObject

サーバ移行マニュアル (V11)

発行日 2016 年 12 月 09 日 [第 1 版]

発行者 インフォテック株式会社